

今月の市民役



誇りに思える
ふるさとづくりを

— 嘉数ハイツ自治会長の片腕 —

仲座 利恵さん

嘉数ハイツ自治会は、外人向け住宅街が一般分譲されて、昭和五十四年に宜野湾市で二十二番目の自治会として誕生しました。そんな特殊な事情から、公民館もずっと借家住まいでしたが、昨年三月、待望の公民館が完成しました。今月は金城庄春自治会長の片腕として、住みよい地域づくりに取り組んでいる書記の仲座利恵さんを紹介します。

嘉数ハイツ自治会では、夏祭りや敬老会、ふれあいピクニックなどの行事のほか、子ども会活動、デイサービス、サークル活動などが活発に行われています。さらに公民館ができたことで、利用者も以前より増えたとの事。仲座さんは会長は忙しい人ですから、外出することが多いんですよ。だからおばあちゃんたちがいらつしやるデイサービスの日がとても楽しみです。ね、と言って取材した前日もピクニックだったということ。たくさんの方が参加してくれて楽しかったとうれしそうでした。

ところで、ハイツの近くでは都市緑地の計画が進められています。金城会長は、緑地建設にかかる住民説明会などで、現在はかなり忙しいのですが、仲座さんがよく頑張ってくれて本当に助かっています。と感謝していました。また、私たちの世代は他所からこのハイツに来ましたが、子どもたちはここで生まれ育っています。つまり子どもたちにとっては、ここがふるさとなんです。だから私たちはこの地域を次世代、子どもたちが誇りに思えるふるさとにしなければなりません。とのお話に、仲座さんも私も、自治会長のおつしやるふるさと、地域づくりを手助けしたいと思つています。そのためには、早く仕事に慣れ一人前になりたい」と話してくれました。

地域住民の活動拠点となる公民館もでき、さらに都市緑地計画により公園もできる。嘉数ハイツとして、少し寂しがり屋だけども張り屋さんの書記さんもいて、嘉数ハイツはますます住みよい地域になっていくことでしょう。



こんにちは!! そのひとことが嬉しいお隣さん

宜野湾市地域づくり推進委員会

茶

ぐわーゆんたく 60



身近な気象予報士!?

うりづんの季節となり、あざやかな赤いデイゴの花が咲きだす頃となりました。沖縄の県花であり、オオゴチヨウ、サンダンカと並んで沖縄の三大名花としても有名なデイゴですが、この花が満開に咲くと台風が多いという言い伝えがあるのをご存じでしょうか？ 一九九七（平成九）年に野嵩クシヌカカーのデイゴの花が咲きほこっていたことがありました。ちなみにこの年の台風発生数は二十八。これは予報通りの結果といえるのか!?

他にも、昔はヒンブン（中垣）として植えることが多かったギキチャ（和名・ゲッキツ）の白い花が咲くと台風がくる、あるいは花の香りが強くなる、と雨が降ると言われています。

また、畑の嫌われもの、ナージチュウ（和名・ハイキビ）の葉先に節が入ると、その数だけ台風がくるそうです。昆虫の予報士もいます。まず、名前通りのカジフチャダー（和名・ウスバキトンボ）が群れて飛ぶと台風がくるとされ、ヌカバチャーやチブルバチャー（蜂の一種）が巣を低い所につくると台風が多く、高い所に作ると台風は少ないと言われています。

予報的中率はどうなのか、観察してみませんか？

『宜野湾市史』への問い合わせ
教育委員会文化課
☎ 八九三二一四四三〇



▲ 今年の花はどうなる？
【2009.3.7撮影：野嵩クシヌカカー】